

事業分野
漁業協同組合

団体名
川崎河川漁業協同組合

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

アイデアの種シート

関心のある 15のAction



これまでの取組活動

- ・多摩川でシジミが多く獲れたのは1970年ごろ。
- ・水質悪化でまったく獲れなくなった。
- ・2010年ごろからすこしずつ回復してきて千葉からも船で獲りに来る人もいた。
- ・乱獲を防ぐため大田漁協と川崎河川漁業で共同で漁業権免許を申請した。
- ・シジミ漁が始まったのは10年前の2013年に漁業権免許取得後に川崎北部市場に集荷。
- ・2019年の台風19号やその後の大きな台風が続いたことでシジミがほぼ全滅してしまった。
- ・大田漁協は東京シジミセンターと協力してシジミの放流と調査を重ねて資源の復活に尽力した。
- ・川崎河川漁協も昨年からはじみの放流をはじめた。
- ・少しづつだが資源の回復に向かってる。



市制100周年に向けた取組アイデア

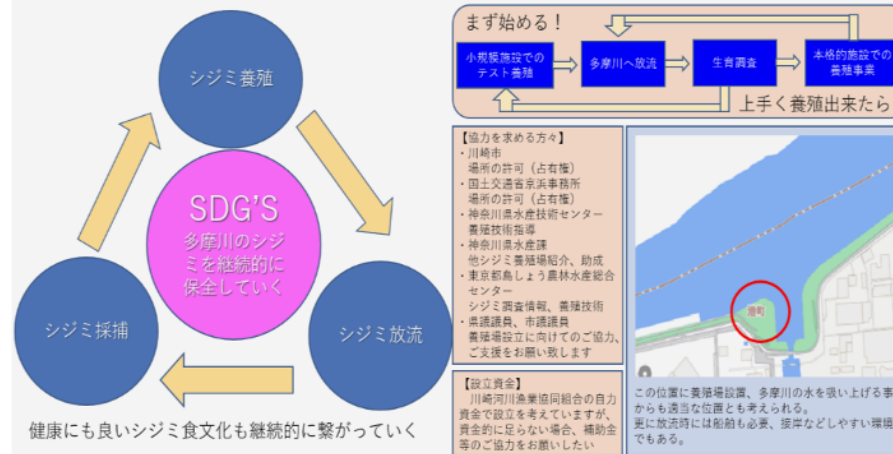
子供会や他の団体と協力して多摩川に魚やシジミの放流

シジミ養殖場設立 川崎河川漁業協同組合中原地区

2022/12/1 澤田記

近年の台風、大水、多摩川の各所で行われている築堤工事などで、シジミ、アサリの稚貝を放流しても採捕できない年月が流れています。これは漁業者にとっても大きな問題であり、確かな見付けはないが、多摩川の自然保全、生態系にも影響を与えている事と考えています。

そこで、この現状を変えて行くためにも多摩川の漁協が今こそ発起し、後世に多摩川の自然を残す事業を行っていかないと考え、立案を立案しました



実行委員会参画団体に向けたメッセージやアピール

多摩川のシジミやアユは公害で一度死んだ川が復活した証になります。
川崎市市制100周年には欠かせないものと思います。